

(様式6-2)

研究成果概要

所属学校名 鈴鹿市立玉垣小学校

職・名前 教諭 伊藤 俊介

- 1 事業の名称 一般内地留学
- 2 留学先の名称 大阪教育大学
- 3 研究主題 人権教育を進める教師が大切にすべきこと
- 4 研究成果の概要

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで、大阪教育大学で「人権教育」について研究を深めた。大阪教育大学・同大学院での学びを通して、同和教育の歴史や様々な人権課題、多様性教育の理念の中に見えてきた、人権教育をより実りあるものにするために教師が大切にすべきことについて整理をした。

研究を通して学んだことは、

- ・「寝た子を起こすな」論は、部落問題をはじめとした人権課題の解決にはつながらない。
- ・「差別」や「平等」といった人権に関わる言語に対して、教師集団で共通理解を図ることが大切である。
- ・同和教育の歴史の中で、子どもを高めてきた教師には、ソーシャルワーカー、活動家・運動家の側面がある。

といったことである。

また、多様性教育については、大阪多様性教育ネットワークへの参加を通して学ばせていただいた。多様性教育のプログラムは、

自分の価値や自己肯定の感情を育むことを土台としつつ、違いをふまえた他者肯定の感情を育むことへと発展していく。これらと関連しつつ、差別につながりやすい違いを取り上げてその特徴や背景を学ぶ。これらについて学んだうえで、共通に必要な概念や枠組みを整理していく。そのうえで、目の前で起こった差別的言動にどう対応すればよいのかを学習する。個別場面への個人的対応から始まって、社会的状況への組織的・集団的対応の仕方を学ぶ。

という流れになっている。このような流れで学ぶことによって、単に「みんなちがって、みんないい」で終わることなく、自分から出発して、社会に働きかける行動力を育むプログラムとなっている。この多様性教育の研修の中では、教師が自分自身のことを振り返り、他者に対して自らを語る機会が多くあり、教師にとって「脱学習」の機会になる。人権教育を進めていく上で、子どもに自らを見つめさせお互いのことを語らせようとするのであれば、子どもの前に立つ教師がまず自らを振り返っておくことは非常に重要なことである。